

# 道海史

## 中世

平家との抗争に破れ、房州に逃げ延びた源頼朝。彼が頼りにしたのが、千葉亥鼻城の下総介千葉常胤と、高藤山（一ノ宮柳沢城）にいた上総介平広常でした。頼朝の要請に応じて、広常が動員した兵は2万。頼朝が率いた軍勢3万のうちの3分の2が、いまの長生・夷隅・君津の3郡から集められた広常の軍勢だったことから、その力の程がうかがえます。

その後、広常が頼朝に殺害されてしまうと、常胤の孫常秀が居城とした時代を経て柳沢城は廃虚に。今では高藤山城址と古蹟之碑が残るのみです。

また戦国時代末期に要塞の山城として築かれた一宮城は、里見氏と正木氏の争いによって永禄5年頃、落城したといわれています。

## 近世

徳川家康の支配下におかれた房総では、本多忠勝が大多喜10万石の城主になり、その領地の一部であった一宮で、内藤四郎左衛門正成が城代を務めます。

江戸中期、一宮は徳川吉宗に仕えていた加納藩9代久通が一万石の大名として治めることに。以後、加納家は16代久宣（のちの一宮町長）まで、陣屋や農業用水として洞庭湖の造成、海岸防備のため徴兵制度の整備や砲台の設置などを行いながら、一宮本郷村などの10村を分郷支配しました。

一宮でも行われている九十九里浜の地曳網は、戦国時代に紀州から伝えられたのが起源とされ、幕府の保護もあって、江戸後期文化文政〜天保のころはかなりの漁獲高で、昭和40年代頃までは盛んに行われていました。



皇女和宮の御御籠（町指定有形文化財）（上）／高藤山城址と古蹟の碑（町指定史跡）（下）



梅樹双雀鏡（国指定重要文化財）



玉前神社 蓬萊鏡（町指定有形文化財）



加納久宣公の墓（町指定史跡）



玉前神社社殿（県指定有形文化財）